

2017年PIMCO長期経済予測 会議 (セキュラー・フォーラム) ゲスト・スピーカー略歴



ローレンスH・サマーズ氏

クリントン政権の財務長官、オバマ政権の国家経済会議委員長、元ハーバード大学の学長、元世界銀行チーフ・エコノミスト

サマーズ氏が財務長官を務めた時期は、米国史上最長の景気拡大局面と重なります。また、ここ半世紀の間に財政黒字の状態で退任した財務長官は、サマーズ氏だけです。

サマーズ氏は、過去20年間に発生した重大な金融危機に対処する上で、常に重要な役割を果たしてきました。1990年代には、メキシコ、ブラジル、ロシア、日本、アジア新興国を震源とする国際的な金融危機に際して、米国政府の対応策を先頭に立って策定しました。また、オバマ政権では、2008年の金融危機、自動車業界の危機、欧州通貨制度の破綻危機に際して、主席経済顧問の1人として米国政府の方針の策定に貢献しました。政権を離れるに当たり、当時のオバマ大統領は、「米国が深刻な危機に直面したタイミングで、サマーズ氏のように聡明で、思慮深く、経験豊富な人物が積極的に解決策を提案し、政府の経済チームを主導してくれたことに、これからも感謝し続けることでしょう」と語りました。

エコノミスト誌は、サマーズ氏の影響力を評価して、ミクロ経済面での「自由放任主義」とマクロ経済面での積極的対応を組み合わせた金融危機時の経済政策を「サマーズ・ドクトリン」と定義付けしました。「市場は介入を受けることなく資本、労働、思想を配分すべきあるが、時として混乱が生じた場合には、政府が強力に対応すべきである」。

サマーズ氏がハーバード大学で学長を務めた5年間は、同大学が大きな変化を遂げた時期でした。サマーズ氏は機会の平等を重視し、年収が6万ドル以下の家庭に対して授業料等の負担をすべて免除しました。また、幹細胞の研究とゲノミクスを対象とする大規模なプログラムを導入することによって、ボストン、特にハーバード大学のあるケンブリッジ市を、ライフサイエンス研究の分野におけるグローバル・リーダーに押し上げる目標を掲げ、積極的に取り組みました。さらに、おそらく在任中の最も重要な功績として、海外留学プログラム、教員と学生の交流、学内の協調体制の大幅な拡大を通じて、ハーバード・カレッジを一新する取り組みを主導しました。

サマーズ氏は、28歳という近年で最も若い年齢でハーバード大学の教授に就任した一人です。現在は名誉学長およびチャールズ W. エリオット大学教授であり、ビジネス政府関係センターの責任者を務めています。また、科学的業績によって米国立科学財団のアラン・ウォーターマン賞を受賞した最初の社会学者であるほか、1993年には、40歳以下の最も優れた米国の経済学者に与えられるジョン・ベイツ・クラーク賞を受賞しました。2002年には、米国科学アカデミー会員に選任されました。また、複数の書籍を執筆したほか、学術雑誌に150以上の論文を公表しています。

サマーズ氏は、様々な企業や投資家へのアドバイザーを務めています。最先端の金融サービスの新興企業であるスクエアとレンディング・クラブでは、取締役を務めています。また、シチズン・スクールとセンター・フォー・グローバル・デベロップメントの理事長を務めるほか、ティーチ・フォー・アメリカの執行委員会に属しています。最近では、「健康のみならず平等をもたらし、万人の尊厳ある人生に貢献する」と国連総長が賞賛した、コミッション・オン・グローバル・ヘルスの理事長を務めました。

クリントン元大統領は、サマーズ氏が「変わりゆく世界を洞察する稀有な能力と、それを実現する技術を持している」と語りました。また、タイム誌、フォーリン・ポリシー誌、プロスペクト誌、エコノミスト誌をはじめとする数多くの雑誌において、世界で最も影響力のある思想家の1人として称賛されてきました。講演会、フィナンシャル・タイムズ紙の定期コラム等のコメントリーにおいて、米国および世界の経済政策に関する議論を引き続きリードしています。



タリ・シャーロット博士

執筆者、神経科学者、ロンドン大学 アフェクティブ・ブレイン研究所所長

シャーロット博士は、人間の意思決定、楽観主義、感情に関する分野で指導的な役割を担う専門家です。神経科学者として、人間の意思決定、信念、将来に対する不正確な期待、そしてそれらをどのように変えること（あるいは持続させること）ができるのかを明らかにするために、心理学、行動経済学、神経科学の研究を組み合わせさせた研究に従事しています。人間はなぜ悪いニュースを額面通りに受け止めないのでしょうか（2008年の金融危機の背景にある人間の性質であり、災害に対する備えや医療検査の受診不足にもつながります）。なぜ、非現実的な未来を期待してしまうのでしょうか（離婚の可能性を過小評価してしまうことや、自らの子供に独自の才能があると期待してしまうことなど）。一度行なった決定を覆すことは、なぜか難しいのでしょうか。マサチューセッツ工科大学の客員教授である博士は、ユニバーシティ・カレッジ・ロンドンの准教授として、アフェクティブ・ブレイン研究所を指揮しています。このチームは、幸福感を高める行動変化を促す方法を見いだす目的で、上記のような疑問に積極的に取り組んでいます。著書には『楽観的バイアス（原題：The Optimism Bias : A Tour of the Irrationally Positive Brain、パンテオン/ランダム・ハウス、2011年、国外でも10カ国で出版）』と『楽観主義の科学（原題：The Science of Optimism、TED、電子書籍）』があるほか、『選好と選択の神経科学（原題：The Neuroscience of Preference and Choice、エルサビア）』の共同編集者でもあります。また、CNN、MSNBC、サイエンス・チャンネル、トゥデイ・ショー、BBC、その他世界各国の多くの出版物において取り上げられた実績があります。

シャーロット博士は、BBCの『サイエンス・クラブ（BBC2）』の共同司会者を務めました。また、タイム誌のカバー・ストーリー『楽観主義の科学（原題：The Science of Optimism、2011年5月）』、オブザーバー・レビュー、ガーディアン、ワシントン・ポストの健康セクション、ニューヨーク・タイムズの論説（『大いなる幻想（原題：Major Delusions、2011年）』）のカバー・ストーリーを執筆しました。さらに、保険、資産管理、マーケティング、娯楽、社会起業、芸術、健康、安全、メンタルヘルス、アカデミズムなどの分野の、多様な民間、公的部門の企業やグループに対して、基調講演を行なってきました。このほか、TED2012を始め、多くの一般向け講演の実績があります。



ニュート・ギングリッチ氏

2012年共和党大統領候補、元米国下院議長 (1995～1999年)

ギングリッチ氏は、共和党が40年ぶりに下院の過半数を獲得した1994年の選挙における政策綱領「アメリカとの契約」の作成者として有名です。その後、下院議長として、政府からアメリカ国民に権力を取り戻すことによって現状を打破しました。在任時には、福祉制度改革を可決したほか、30年ぶりの均衡予算と16年ぶりの減税を実現しました。また、防衛能力と諜報能力強化のための予算を復活させたことに対して、超党派による「9.11同時テロ報告委員会」から賞賛を受けました。

現在、ギングリッチ氏はフォックス・ニュースのコメンテーターを担当しています。また、50カ国、125以上の都市の事務所、6,500人以上の弁護士を擁する世界最大の法律事務所であるデントンにおいて、上席顧問を務め、同事務所の世界トップクラスの公共政策と規制に関する業務において助言を提供しています。また、世論調査会社であるギャラップ社のシニア・サイエンティストでもあります。

2011年5月から2012年5月にかけて、ギングリッチ氏は共和党大統領候補であり、サウスカロライナ州とジョージア州の予備選挙で勝利を収めました。選挙キャンペーンでは、革新的な政策アジェンダ、新勢力を共和党陣営に結集させる取り組み、討論会でのパフォーマンスが特に注目を集めました。ガソリン価格を1ガロン=2.5ドルに強制的に引き下げる案は、米国におけるエネルギー資源の利用に関して国民的な議論を呼び起こしました。

ギングリッチ氏には、このような特筆すべき功績の他にも、優れた実績があります。執筆家として、ニューヨーク・タイムズ紙でベストセラーに選ばれた14冊のフィクション、ノンフィクションを含む、27冊の本を出版しました。また、カリスタ夫人と共同で、歴史と公共政策に関するドキュメンタリーを制作しました。知識への飽くなき探究心を背景に、極めて人気の高い講演者としての地位を確立し、世界各地の有名な組織団体での講演を引き受けています。

ギングリッチ氏は、全米の国民を対象とする医療制度改革実現のために、真剣に取り組んでいることでも広く知られています。下院議長として、メディケアの破綻を防ぎ、重篤患者を救済するための米食品医薬品局の改革を推進するとともに、新たに研究、予防、健康に焦点を当てました。また、米糖尿病協会から医療以外の分野における最高の賞を授与されたほか、1995年には米国の有名な慈善団体である、マーチ・オブ・ダイヤモンドより「シチズン・オブ・ザ・イヤー」に選ばれました。

2003年には、低コストで高い効果を上げるための現代的医療制度の実現を目標に、センター・フォー・ヘルス・トランスフォーメーションを設立し、2011年に共和党大統領候補として立候補するために退任するまでの間、所長を務めました。

世界史、軍事問題、国際関係の専門家として世界的に著名なギングリッチ氏は、防衛政策協議会の会員を務めました。講師として、少将向けの共同戦闘講座を最も長く担当しました。また、ナショナル・ディフェンス大学では、特任客員講師及び教授として、軍の全5分野の将校向けに教鞭をとりました。このほか、外交問題評議会のテロリズム・タスクフォースのメンバーを務めました。2005年には、国連改革を目指す議会超党派グループによる、国連改革に関するタスクフォースの共同議長を務めました。

職業軍人の父を持つギングリッチ氏は、若いうちから、米国のため、自由を守るために人生を捧げることを決心しました。未来を守るためには過去の理解が重要との認識のもと、歴史の研究に没頭し、エモリー大学から学士号を、テュレーン大学から欧州現代史の修士号と博士号を取得しました。政治家になる前には、ウェスト・ジョージア大学において8年にわたって歴史と環境研究の分野の教鞭をとりました。



イアン・ブレマー博士

執筆家、ユーラシアグループ社長

イアン・ブレマー博士は、世界最先端の政治リスクのリーサーおよびコンサルティング企業であるユーラシアグループを創設し、社長を務めています。

ソート・リーダー、執筆家、著名な講演者として、講演会やテレビに出演し、また、外交問題のコラムニスト兼総合編集者を務めるタイム誌などの最大手の出版物において、政治問題に関する見解を頻繁に提供しています。エコノミスト誌において政治リスクの分野における「上り調子のグル」と評された博士は、ニューヨーク大学のグローバル・リーサー教授として教鞭をとります。直近では、2015年5月に『Gゼロ時代のアメリカの選択（原題：Three Choices for America's Role in the World）』を上梓しました。

1998年には、わずか2万5,000ドルの資金でユーラシア・グループを創設しました。現在、同社はニューヨーク、ワシントン、ロンドン、東京、サンパウロ、サンフランシスコに事務所を置き、世界90カ国に専門家と人材のネットワークを構築しています。同社は、政治動向や国防のダイナミクスが市場をどのように動かし、グローバルな投資環境を形成しているのかについて、分析の結果と専門的な知見を提供しています。ブレマー博士は、同社の社長として、そして最も積極的な発言者として、最前線にいる経営者、資産運用担当者、外交官、国家元首にアドバイスしています。

ブレマー博士は、政治リスクの機微を金融市場に導入したこと（ウォールストリート初のグローバル政治リスク指数（GPRI）を開発しています）、そして政治リスクを学術分野として独立させたことによって、高い評価を受けています。「政治情勢が経済情勢と少なくとも同程度に市場を動かす国々」というエマージング市場の定義は、業界のスタンダードになりました。また、どの国も国際的なアジェンダを設定する意思や能力がない、権力の真空状態を称した「Gゼロ」という用語は、政策当局やソート・リーダーの間で幅広く定着しています。ローレンス H. サマーズ氏は、「グローバルな政治経済の分野では、ブレマー博士ほど聡明で先見の明があるアナリストは存在しない」と評しています。

ブレマー博士は、講演会やメディアにおいて、政治と金融市場の相互関係について積極的に議論しています。また、全米ベストセラーの『「Gゼロ」後の世界—主導国なき時代の勝者はだれか（原題：Every Nation for Itself: Winners and Losers in a G-Zero World）』や『自由市場の終焉—国家資本主義とどう闘うか（原題：The End of the Free Market: Who Wins the War Between States and Corporations?）』をはじめとする、9冊の書籍を出版しました。このほか、ロイターとフィナンシャル・タイムズ紙のAリストの定期コラムニストを務めるとともに、多くの有力な出版物において数百にのぼる記事を執筆してきました。さらに、CNBC、フォックス・ニュース、ブルームバーグ、CNN、BBCなどのネットワークに定期的に出演しています。

1994年には、スタンフォード大学にて政治学博士課程を取得したほか、同大学のフーバー研究所において史上最年少のナショナル・フェローになりました。2007年には、世界経済フォーラムが選出する若手グローバル・リーダーに選ばれ、地政学リスクに関するグローバル・アジェンダ・カウンシルの初代理事長を務めました。また、アジア社会政策研究所の地政学の分野のハロルド・J・ニューマン名誉フェローであるほか、近東財団のプレジデント・カウンシル、コンコルディアのリーダーシップ・カウンシル、インテリジェント・スクエアードのボード・オブ・トラスティを務めています。



ラグラム・ラジャン博士

前インド準備銀行総裁（2013～2016年）、元国際通貨基金のチーフ・エコノミストおよびディレクター・オブ・リサーチ（2003～2006年）、シカゴ大学経営大学院のファイナンス教授、執筆家

ラジャン博士は、シカゴ大学経営大学院のファイナンス特別功労教授を務めています。2013年9月から2016年9月の間、第23代のインド準備銀行総裁を務めました。2003年から2006年にかけては、国際通貨基金（IMF）のチーフ・エコノミストおよびディレクター・オブ・リサーチを務めました。

ラジャン博士は、銀行業務、コーポレート・ファイナンス、経済開発、なかでも、これらの分野において金融が果たす役割を研究の対象としています。2003年には、ルイズ・ジンガレス氏と共同で『セイヴィング・キャピタリズム（原題：Saving Capitalism from the Capitalists）』を執筆しました。その後に執筆した『フォールト・ラインズ―「大断層」が金融危機を再び招く（原題：Fault Lines: How Hidden Fractures Still Threaten the World Economy）』は、2010年にファイナンシャル・タイムズ&ゴールドマンサックスから「ビジネス・ブック・オブ・ザ・イヤー」を受賞しています。

ラジャン博士は、グループ・オブ・サーティーと米国科学アカデミーの会員です。また、米国ファイナンス学会の会長を務め、2003年1月には、初のフィッシャー・ブラック賞（40歳以下の最も優れたファイナンスの研究者が対象）を受賞しました。このほか、2011年にはNASSCOMからグローバル・インディアン・オブ・ザ・イヤーを、2012年にはインフォシスからエコノミック・サイエンス賞を、2013年にはドイツ銀行金融経済賞を、2014年にはユーロマネー紙からセントラル・バンカー・オブ・ザ・イヤーを、2016年にはバンカー誌からセントラル・バンカー・オブ・ザ・イヤーを受賞しています。



ゲイリー・ロック氏

元米国駐中国大使 (2011～2014年)、元米国商務長官 (2009～2011年)、元ワシントン州知事 (1997～2005年)

2011年3月9日に、当時のオバマ大統領はロック氏を米国の第10代の中華人民共和国大使に任命しました。同年7月27日に上院において就任が承認され、同年8月1日に宣誓が完了しました。同年8月13日には、中華人民共和国の特命全権大使に就任しました。

それ以前には、商務長官として、経済再建と雇用回復というオバマ政権の野心的な政策実行に貢献しました。政権内部では、大統領の国家輸出イニシアティブの実現に向けた橋渡し役を務め、在任中の2009年から2010年にかけて、米国の輸出は全体では17%、中国向けでは32%の伸びを達成しました。また、中国大使としても、安全保障体制を強化しつつ、友好国および同盟国向け輸出のライセンス取得にかかる負担緩和を通じて米国企業の競争力向上を目指す、大統領の輸出規制改革の初期段階の取り組みを統括しました。

閣僚に就任する前には、米国で貿易依存度が最も高いワシントン州の知事を2期務めました。知事として、アジア、メキシコ、欧州向けの10の生産的かつ主要な貿易団を率いることによって、同州の製品やサービスの販売を拡大しました。在任中の8年間に、国レベルでは2回の景気後退に見舞われたものの、同州の雇用は28万人増加しました。

州知事および商務長官として、政府機能効率化のためのイノベーション、顧客重視の姿勢、優先順位に基づく予算配分、リスクの高いプロジェクトを予算の範囲内で適切に管理する能力は、ハーバード・ケネディ・スクールをはじめとする全米の著名な作家や諸機関から高い評価を受けました。

長期にわたって公職に従事するかたわら、幅広い分野で中国との連携を進めました。商務長官時代には、中国の貿易政策の重要な変化につながった商業と貿易に関する米中共同委員会の2つのセッションの共同議長を務め、中国向けの輸出や中国国内での営業に取り組む米国企業にとって、対等な競争環境を整備する役割を果たしました。ワシントン州知事時代には、中国と同州の経済関係の強化に成功し、同州から中国への輸出額を2倍以上に相当する年間50億ドル強に押し上げました。また、国際的な法律事務所のデイビス・ライト・トレメインLLPのシアトル事務所のパートナーとして、同事務所の中国関連事業の共同統括役を務めました。

ロック氏は、中国系米国人としては初めての中国大使、商務長官、州知事でした。祖父は中国からワシントン州に移住した後、当初は英語のレッスンを受ける代わりに召使いとして働きました。父も中国で生まれ、小規模事業主として食料品店を経営していました。ロック氏は、シアトルの公立学校に通いつつ、父が営む食料品店で働いていました。

ロック氏は、エール大学の政治学学士号と、ボストン大学の法学位を取得しました。

ピムコジャパンリミテッド

105-0001

東京都港区虎ノ門4-1-28

虎ノ門タワーズオフィス18階

金融商品取引業者 関東財務局長(金商) 第382号

加入協会/ 一般社団法人日本投資顧問業協会、一般社団法人投資信託協会

ピムコジャパンリミテッドが提供する投資信託商品やサービスは、日本の居住者であり、かつ法律による制約のない方に対して提供するものであり、かかる商品やサービスが許可されていない国・地域の方に提供するものではありません。

本資料は情報提供を目的として配布されるものであり、投資助言や特定の証券、戦略、もしくは投資商品の推奨を目的としたものではありません。本資料に記載されている情報は、信頼に足ると判断した情報源から得たものですが、その信頼性について保証するものではありません。

PIMCOは、アリアンツ・アセット・マネジメント・オブ・アメリカ・エル・ピーの米国およびその他の国における商標です。THE NEW NEUTRALは、パシフィック・インベストメント・マネジメント・カンパニー・エルエルシーの米国およびその他の国における商標です。

本資料の一部、もしくは全部を書面による許可なくして転載、引用することを禁じます。本資料の著作権はPIMCOに帰属します。©2017年

(注) PIMCOはパシフィック・インベストメント・マネジメント・カンパニー・エルエルシーを意味し、その関係会社を含むグループ総称として用いられることがあります。